

こんにちは。お世話様です。

こんにちは。お世話様です。私事で申し訳ありませんが、私が今、現場管理も行っておりますので、情報誌が皆様に届くのが、遅れました事をお詫び申し上げます。皆様にご迷惑をおかけしておりますがお許し下さいますよう、よろしくお願い致します。尚、私が担当しております住宅で、7月末に見学会を行いますので、また改めて、ご案内したいと思います。

さて、14回目のお話を始めたいと思います。

今月は、「断熱材」についてお話したいと思います。家の暑さ・寒さを左右する大事な素材、また防音効果にも関係してくる素材です。壁内で隠れて、目に見えない部分ですが、大事な役目を持っています。その断熱材について、お話します。

昔の家は、断熱材と呼ばれるものはなく、土壁を塗って壁の仕上げとしていましたので、それが断熱材も兼ねて仕上げとしていました。土でも、厚く塗って仕上げたので、断熱材の代わりになっていたのです。

そもそも断熱材というものが始まったのは、昭和40年代中頃から入るようになりました。建物の構造も、土壁等の湿式(しっしき・濡れた材料を使い、乾燥して仕上げる施行方法)が主流の仕上げ方法から、乾式(かんしき・乾いている材料を使い、乾燥させずにそのまま、仕上げる施行方法)の方法に変わってきました。時代の流れで、仕上げの方法が変わってきたのです。

その後、ガラス繊維を綿状にした断熱材、「グラスウール」が断熱材の主力として、用いられるようになりました。比較的、安く、仕事上にも使用しやすいので、今現在も幅広く用いられています。余談ですが、グラスウールはガラス繊維ですので、夏とかに仕事をしていると、ガラス繊維の粉が汗をかいた体に張り付いて、チクチクするのです(苦笑)。

今でも幅広く用いられているグラスウールですが、欠点があります。それは、水分を含んでしまうと、断熱性能が落ちてしまう事です。そもそも綿状の製品ですので、含んだ水分は抜けなくなってしまうのです。いくら性能の良い断熱材でも、性能が発揮できなければ無意味です。しかも、濡れた断熱材は、木材を腐らせます。家を守る為に使用している断熱材で家を腐らせたなら、元も子もありませんよね？。それには、断熱材の外側に当たる、「防湿シート」、又は「通気工法」とも深い関係があります。それは過去に「通気」でもお話しましたが、また改めてお話させていただきます。

それに対し、今我社で採用している断熱材「発泡ポリウレタンフォーム」は、独立気泡の硬質ポリウレタンフォームの為、吸湿性・吸水性が低く、水分を吸収せず、むしろはじきます。断熱性能は16K(断熱材の性能を表す単位)のグラスウールの約2倍という性能を持っています。内部結露を抑える効果も備えています。今回の見学会の家もそうですが、冬に家の中で暖かいのは当たり前ですが、夏に家の中で「涼しい」という感覚を是非、体感して頂きたいと思います。



M-ONE HOME

(株)モリケン

TEL:(0268)68-2225 FAX:(0268)68-2196 森田携帯(090)2215-8356

URL:<http://www.moriken-motto.com>

E-mail:mail-info@moriken-motto.com